

Lektion 2

文法のポイント

●動詞の〔過去形〕

ドイツ語では日常的な〔過去の話〕はほとんど〔現在完了形〕で表現します。では、過去形はどんなところで用いるかということ、過去の話〔時間の経過にしたがって〕まとめて話す時 -こう考えるのがよいでしょう。ですから、小説、新聞記事などの〔書きことば〕は当然過去形になります。ただし、sein(war)、haben(hatte)、それに助動詞は日常表現でも〔過去形〕を用いるのが普通です。

●接続詞と副文

〔…なので〕〔…した時に〕などという、主文(中心になる文)に従属する文(従属節)をドイツ語では〔副文〕といい、その先頭に立つ、英語で言えば because、as などにあたる言葉を〔接続詞〕と呼びます。副文の最大のポイントは、定動詞(定形)が文末に来ることです。もうひとつのポイントは、副文が前におかれた場合、〔定動詞は2番目〕の原則から、主文の方は〔定動詞 → 主語〕の語順になることです(Grammatik 2を参照)。

表現のポイント

●自分や人の〔過去,経歴〕について話す

〔自分について語る〕 - これは〔発信〕の基本です。

●〔物語〕などを〔読んで理解〕する

SFCのドイツ語教育では〔読む・書く〕よりは〔聞く・話す〕を重視しています。ドイツ人とコミュニケーションをとり、ドイツでの生活を有意義にするためにはまず後者が必要だからです。